

令和4年度 第1回函館市健康増進計画計画策定推進委員会

会議概要

■ **開催日時** 令和4年7月25日（月）18時～19時30分

■ **開催場所** 函館市役所本庁舎8階大会議室

■ **会議内容**

基調講演会

題：「函館市の健康課題に基づく計画の策定」

講師：北海道公立大学法人札幌医科大学医学部公衆衛生学講座

教授 大西 浩文 様

議題

- (1) 函館市健康増進計画策定推進委員会委員長の選出および
函館市健康増進計画策定推進委員会副委員長の指名について
- (2) 「健康はこだて21」（第2次）について
- (3) 今後のスケジュールについて

■ **資料**

- ・会議次第
- ・資料1：函館市健康増進計画策定推進委員会委員長の選出および
函館市健康増進計画策定推進委員会副委員長の指名について
- ・資料2：「健康はこだて21」（第2次）について
- ・資料3：函館市健康増進計画策定スケジュールおよび
最終評価スケジュールについて
- ・資料4：函館市健康増進計画策定推進委員会設置要綱
- ・資料5：函館市健康増進計画策定推進委員会 委員名簿

■ **出席委員（16人）**（委員長，副委員長以外は五十音順）

小葉松洋子委員長，澤辺桃子副委員長，

池田公貴委員，市居秀敏委員，内山崇委員，小川靖行委員（代理出席者：
松崎繁雄氏），小倉清春委員，小野田府委員，鏡典子委員，木幡恵子委員，
佐藤豊委員，澤口則子委員，鈴木均史委員，浜克己委員，柳澤佳知委員，
山崎雄二委員

■ **欠席委員（1人）** 濱田ルミ子委員

- **アドバイザー**（北海道公立大学法人札幌医科大学医学部公衆衛生学講座）
大西浩文教授， 小山雅之助教

- **オブザーバー**（全国健康保険協会（協会けんぽ）北海道支部）
服部慎一氏， 遠島綾子氏

- **報道機関** 無し

- **傍聴者** 無し

- **事務局**
（保健福祉部長， 市立函館保健所次長および保健福祉部健康増進課）
大泉潤部長， 扇谷圭一次長， 三上敦誉課長， 高杉雄亮主査，
有賀友香主任技師， 北村めぐみ主任技師， 笠原未帆主任主事

- **会議要旨**

1. 開 会

（事務局）三上課長

本日は，お忙しい中，ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

定刻となりましたので，ただいまから，令和4年度第1回函館市健康増進計画策定推進委員会を開催いたします。

本日，進行を務めさせていただきます，函館市保健福祉部健康増進課長の三上と申します。

本日は，委員総数17名中16名の委員にご出席いただいております。「函館市健康増進計画策定推進委員会設置要綱」第5条第3項の規定により，委員会が成立しておりますことをご報告いたします。

なお，委員の皆様のご紹介につきましては，配布の座席表をもって代えさせていただきます。

また，函館市と連携協定書を締結しております札幌医科大学から本委員会のアドバイザーとして，同大学医学部公衆衛生学講座の大西浩文教授，小山雅之助教にご出席いただいております。

同じく，函館市と連携協定書を締結しております全国健康保険協会（協会けんぽ）北海道支部から，本委員会のオブザーバーとして服部様，遠島様にリモートでご出席いただいております。

それでは，会議次第に従いまして進めてまいります。

はじめに、函館市保健福祉部長の大泉よりご挨拶を申し上げます。

2. 保健福祉部長挨拶

－挨拶－

(事務局) 三上課長

続きまして、基調講演に進みます。

本日は、本委員会のアドバイザーを務めていただいております札幌医科大学医学部公衆衛生学講座の大西浩文教授から、「函館市の健康課題に基づく計画の策定」と題し、ご講演をいただきます。

それでは大西教授、よろしく願いいたします。

3. 基調講演

－基調講演－

(事務局) 三上課長

大西教授、ありがとうございました。

4. 議題

(1) 函館市健康増進計画策定推進委員会委員長の選出および函館市健康増進計画策定推進委員会副委員長の指名について

(事務局) 三上課長

続きまして、函館市健康増進計画策定推進委員会委員長の選出についてです。函館市健康増進計画策定推進委員会設置要綱第4条第2項の規定により委員長は委員の互選により定めることとなっております。

委員の皆様から、ご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

小川委員代理：松崎氏

小葉松委員を推薦したいと思います。

(事務局) 三上課長

小川委員代理の松崎様から小葉松委員にお願いしたいとのご発言がございましたが、皆様いかがでしょうか。

それでは、委員の皆様のご同意がありましたので、小葉松委員が本委員会の委員長に選出されました。

小葉松委員長は委員長席にお移りいただき、これ以降の議事進行は、小葉松委員長にお願いいたします。

小葉松委員長，よろしくお願ひいたします。

小葉松委員長

ただいま，函館市健康増進計画策定推進委員会の委員長に選出いただきました小葉松でございます。函館市医師会からまいりました。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

委員の皆様のご意見の伺いながら，委員会を進めてまいりたいと思っております。

それでは，次の議題に進む前に函館市健康増進計画策定推進委員会設置要綱第4条第3項の規定により副委員長を指名いたします。

副委員長は澤辺委員にお願いいたします。澤辺委員は副委員長席へ移動願ひます。

澤辺副委員長

ただいま，小葉松委員長よりご指名をいただきました函館市私学振興協議会からまいりました澤辺でございます。

副委員長として委員長の補佐，代理を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

小葉松委員長

それでは議題（2）に進みます。事務局より説明願ひます。

（2）「健康はこだて21」（第2次）について

（事務局）三上課長

－資料の説明－

小葉松委員長

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明について，ご意見・ご質問等ございますか。

どなたからも質問がないようですので私から1点質問なのですが，議題（2）の資料，2（2）のたばこ対策の推進のところ，小中学校の児童・生徒を対象とした喫煙防止講座を開催とありますが，これはどなたが対応されているのでしょうか。保健師ですか。

(事務局) 三上課長

保健師が担当しております。

小葉松委員長

これはすでに行われているのでしょうか。

(事務局) 三上課長

はい、行っております。

小葉松委員長

では、それを徹底していくということによろしいのですね。

(事務局) 三上課長

はい。

希望があれば中学校まで行うということでございます。

小葉松委員長

希望ということは、いま全校で行われているわけではないということでしょうか。

(事務局) 三上課長

はい、希望制です。

出前講座はホームページ等で周知を図っておりますが、小中学校で実施する際に講座の依頼をいただく、という取り組みでございます。

小葉松委員長

だいたいでかまいませんが、現状何割くらい、何校くらいの学校で行われているかわかりますか。

(事務局) 三上課長

校数でいいますと、平成30年度は中学校1校、高校1校の15校、令和元年度は小学校10校、令和2年度は小学校7校、そして令和3年度につきましては小学校8校となっております。

実施する校数が落ちてきていますが、コロナウイルスの関係で講演を控える、中断するというようなことが大きい要因かな、というふうに思います。

小葉松委員長

わかりました，ありがとうございます。

それ以外，皆さま方からご質問・ご意見，よろしいでしょうか。

ないようでしたら，事務局から説明があったとおり，国・道と連携しておりますので，計画期間を延長することにはご異議はないでしょうか。よろしいですか。

異議なしということで，延長を承認いたします。

それでは議題（３）に進んでよろしいですか。では議題（３），今後のスケジュールについて，事務局より説明をお願いいたします。

（３）今後のスケジュールについて

（事務局）三上課長

－資料の説明－

小葉松委員長

ただいまの事務局からの説明にご意見・ご質問ございますか。

浜委員

今ご説明のあった内容ですが，まずその目標というのがどのあたりに定められているのか，どういうところを目標に策定を目指すのかというあたりについて，教えていただければなと思うのですけれども，よろしいでしょうか。

例えば，先ほどの講演で函館市のいろいろなデータが示されましたが，こういう部分についてはどの程度までどうする，とか，そういった部分で目指すべきところがわからないと，計画の策定もしにくいのかなと思いました。

（事務局）三上課長

もしかすると繰り返しの説明になってしまうかもしれませんが，次期計画については，しっかり調査，地域分析を行って，そのうえで何が地域の課題となっていて，どのような取り組みがその課題の解決に結びつくのか，というところを計画の中で明確にしていきたいと思っています。

札幌医科大学さんからの最終的な調査結果というのが１１月に出る予定ですが，その調査結果で明らかになった地域課題をどのように計画に盛り込んでいくのか，というところが今回１番の大きい目標というふうに考えております。

浜委員

わかりました。まずはデータを収集して分析したうえで、目指すべき目標設定、そういうことを明確にするということでしょうか。

(事務局) 三上課長

はい。

小葉松委員長

他にご質問・ご意見、ございませんか。

今の目標という部分、なかなか難しいと思います。

私の個人的なお話をすると、私は産婦人科医師なので、北海道が女性の喫煙率がずっと日本でワースト1というところをととても悲しいこととして、ずっと取り組んできました。もちろん以前より喫煙率は下がっているのですが、全国的に下がっているので、立ち位置は変わっていないんだと思うんです。一生懸命取り組んで下がってはきたけれど、まだ日本のワースト1で、どこかの県を抜かない限りはそこから抜け出せません。ただ、北海道の順位が変わらないとしても、日本全体がいい方向に向かっているのであればそれもやむを得ないのかなというふうには考えたりしますので、数値目標っていうのはなかなか難しいことなのではないかなというのは、私自身の経験から思いました。

事務局から説明があったこのスケジュールということに関しては、皆様ご異議はないでしょうか。

この予定で進めさせていただきます。ご承認ありがとうございます。

それでは全体を通して、各委員、何か言い残したことがあればうかがいたいと思いますけれど、ございませんか。

小倉委員

町会連合会の小倉と申します。

町会連合会で対象とするのはだいたい高齢者の健康維持というところが中心なのですが、先ほどの講演をお聞きしましたら、朝食を摂ることについて随分世代間で数値が違っていると知りました。朝食のことだけではなく、喫煙に関する部分でも、たぶん他の問題でも、小中学校から取り組むということの効果は大きいのかなと思います。ただ、小中学生は人と事業の評価は大変だとお聞きしていますので、そういう面では続けて実施していくところが課題になるのかなというふうに思います。

それから、先ほど数値目標の話が出ましたけれども、函館市は平均寿命や健康寿命などの大変数値が低い、検診率も大変低い、これについて

は以前から言われておりますし、今日の講演でもかなりはっきりデータとして出ていましたので、そういうところを、この計画のところで数値目標として出せばいいかなというふうに思います。

今までなかなか取り組んでも計画的に上がらなかったという結果はあると思いますので、どこに取り組むべきかというところは難しいですが、分析と評価からの実効性の問題についてはやはり検討が必要だと思いますし、そのうえで数値目標を立てるのか立てないのかという議論を次回できればありがたいなというふうに思います。以上です。

小葉松委員長

ただいまの、子どもたちの学校で、とか、小中学校から、というお話が出たので、小中学校の校長会からお二方いらっしゃっておりますが、なにかコメントがありましたら、お願いいたします。

多分、家庭科の授業ですとか、そういうところでいろいろしているのではないかとは思いますが。

池田委員

中学校長会ですが、中学校といたしましては、食育指導ですと朝食の欠食率はそんなに低くはないというふうな押さえではいるんですけども、全体的にそういうような見方があるのであれば、いろいろと、喫煙部分もそうなんですけれども、ポピュレーションという部分でもっとシンプルにしていかなければいけないのかなというのは感じながらお聞きしていました。

小葉松委員長

はい、ありがとうございます。

実際問題、学校では教育指導要領というのに則ってそういうのが入っているのですが、学校で教えても、それが家庭の中で実行できるかどうかということについては各ご家庭の問題になってしまうという部分が、これは医療現場からも見て非常に思うところではありますので、そのような状況でどこまで効果を出せるのかというところが現実問題となってくるのかなというふうにお話を聞いていて思いました。

数値目標というお言葉は先ほども出ましたけれども、これに関しては今後の協議の中で取り組むときに、またご意見を頂戴できればというふうに思いましたが、あとは何かご意見などございますか。よろしいでしょうか。

委員の皆さまからは何もないようでしたら、アドバイザーの札幌医科大学の大西教授、小山助教、全体を通してご意見等ございましたらぜひ承りたく思います。お願いできますでしょうか。

大西教授

本日は参加させていただきましてありがとうございます。

今回函館市さんが独自に行った市民アンケートのデータでございますが、北海道のほうで、同じように市町村が健康増進計画を改定するにあたってデータ分析に基づいた計画策定をしたいという要望があり、北海道と国保連合会が一緒になって、こういった計画を立てる上で役に立つデータを全市町村に提供していくという取り組みが進んでおまして、函館市さんがそのモデル地域に選ばれているということもあり、そういったデータをいち早く活用できるということもございますので、そのデータも併せて分析に加えることで、よりよい計画策定につなげていただけるように私たちとしても協力させていただきたいと思っております。

また、数値目標に関してのお話、先ほどから出ておりますけれども、この「健康はこだて21」の計画というのがやはり10年サイクルで行っている計画でございまして、10年後どこまで下がるのかというところがなかなか現時点で目標を掲げるとするのが難しいということがあると思います。ただ、現状値をふまえたうえで、将来10年後どこまで下がってほしいのか、というような数値目標を掲げて、また中間評価というものもございますので、その進捗状況が、例えば掲げた目標が高すぎてなかなか到達できないのであれば、少し数値目標を下げるということも中間評価の段階では検討が必要になる場面もございますし、まずはその10年後を見据えて函館市がどういう健康状態になってほしいのかというところから数値目標を設定して、進捗を確認していくというような流れになるのではないかなというふうには考えてはいます。

いずれにしても、データ分析を進めまして、皆さまの議論材料としていただけるように分析を進めてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

小葉松委員長

小山先生からは何かございますでしょうか。

小山助教

初めまして。札幌医科大学公衆衛生学講座助教の小山と申します。

大西教授の講演の後半部分、データ分析やアンケートの部分を私が少しさせていただいたんですけれども、やはりアンケート調査だけでも膨

大なデータになるというのが、見ていただいたとおりでございます。そこに国保のデータが入ってきたりですとか、KDBが入ってきますので、それを、今僕の考えているイメージとしては、函館市さんと共有している内容ですけれども、地図に落とし込んでみようかな、というふうに思っています。

いわゆるこの地域の課題を「見える化」という形でやっていくというような形です。函館市全体ではなく、函館市をもっと細分化した、先ほど少し出ていましたけれども、地図を細分化した形での「見える化」というところが出てくると、地域の特色というのが、例えば人口であったりですとか、公園が多いですとか、この地域では実は塩分の摂取量が多いというのがわかってきたりですとか、そういったところが見えてきたりすると、それによって介入の方法が変わって来たりですとか、この地域は重点的にこういう取り組みをしていきたいと思いますとか、そのような提案にもつながってくるかなと思っております。

11月までという期限が決まりましたので、そちらのほうを進めていきたいなというふうに思っています。長い計画になると思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

小葉松委員長

こちらこそよろしく願いいたします。

ただいまのご発言に関してご質問等ございませんか。

なければ、次にオブザーバーでいらっしゃいます全国健康保険協会（協会けんぽ）北海道支部の服部様、遠島様、オンラインで参加されているお二方は全体を通してご意見・ご質問等ございませんか。

服部氏

お世話になっております。協会けんぽ北海道支部の服部でございます。

協会けんぽは函館市さんとKDBエキスパンダーの関係で協力させていただいておりますが、函館市さんに関わらず加入されている方へも積極的にアプローチをかけていきたいというふうに考えております。

計画の策定に向けて、今後ともぜひご協力させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

小葉松委員長

どうもありがとうございます。

その他，全体を通して特にご意見がなければ，これで第1回函館市健康増進計画策定推進委員会を終了したいと思います。

5. 閉 会

小葉松委員長

お忙しい中皆様ご出席いただきありがとうございました。また次回以降，いろんなご意見を頂戴したいと思います。

どうもありがとうございました。

(事務局) 三上課長

皆様どうもありがとうございました。

第2回目のご案内につきましては，また別途ご案内させていただきますので，その際はどうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。